

## 著書出版報告・学会大会発表報告ほか

家政科住居分野 村田 あが

2000年秋以降に出版、発表したものについて下記の通り報告したい。

### 1) 著書・報告書の刊行について

#### ①『日本の風と俗』(共著) 出版報告

日本風俗史学会編『日本の風と俗』(2000年10月30日発行, つくばね舎)

掲載論文「江戸時代末期の家相文献にみる吉凶判断の内容」(p,148-162)

本書は、日本風俗史学会創立40周年記念論文集として出版された。筆者は家相文献『洛地準則』において、家相説を信じることを通して当時の人々が希求し、または忌避したものを明らかにし、住まい造りに寄せられる願いについてまとめた。なお、本稿は平成12年度科学研究費補助金の助成を得て作成した。

#### ②『武蔵野市第3期長期計画第2次調整計画(平成13年度～18年度)』(共著) 発行報告

武蔵野市第3期長期計画第2次調整計画策定委員として、標記計画の策定をし、標記報告書をまとめた。(武蔵野市企画部企画課編, 2001年3月発行)

武蔵野市の第3期長期計画の第2回目の見直しとなる本計画は、地域生活環境指標、市民意識調査などの基礎資料や、庁内ヒアリング、市民ヒアリング、市議会全員協議会、市議会会派別ヒアリングなどを経て、向こう6年間の市の優先事業を含む諸計画を策定したものである。筆者は、環境・都市基盤分野の委員として、第1次調整計画の実績評価、第2次調整計画の基本方針、優先事業、個別事業の該当分野部分を担当した。

### 2) 学会参加報告

#### ①日本風俗史学会第41回総大会研究発表報告

標記学会総大会の研究発表は、2000年10月22日に戸板女子短期大学(東京都)にて行われた。発表論文名は「『洛地準則』にみる江戸時代末期の家相説について」であり、この発表要旨は後に同学会誌『風俗史学』15号p,62-64に掲載されている。

江戸末期の家相文献『洛地準則』の構成と当時の家相説の典拠と目された舶載漢籍の関係、及び本文献にあらわれる家相と風水との関連性についてまとめ、発表した。なお本研究は平成12年度科学研究費補助金の助成を得て行った。

## ②日本家政学会第53回大会研究発表報告

標記学会大会の研究発表は、2001年5月12日にくらしき作陽大学（岡山県）にて行われた。発表論文名は「江戸後期の家相文献にみる建築儀礼について（第2報）」であり、享和元年に畿内で刊行された家相文献『家相図説大全』の建築儀礼に関する記述を分析したものである（研究発表要旨集p.247）。

儀礼の記述の分析により、住まいの敷地撰び、建材の調達、間取りの決定から家移りに至るまで、全ての段階において観相家の係わるべき儀礼の場面が設定されている状況が明らかになった。なお本研究は平成13年度科学研究費補助金の助成を得て行った。

## 3) 講演会の報告

研究者、写真家、作家などの研究会であるサーカス'85第81回例会に招かれ、講演する機会を得た。例会テーマ「中伊豆の築200年旧家で風水を学ぶ」、2001年8月4日、伊豆大仁の旧菅沼屋敷にて、講演テーマ「風水思想と環境共生」と題して行った。

会場となった築200年の旧家には明治年間の家相図があり、この解説を行うと共に、家相と風水の関係から、陰陽五行説に起因する中国東南部における風水の解釈と環境共生の視点について、スライドとプリントを用いて講演した。なお本講演は、平成13年度科学研究費補助金の助成を得て行った。

## 4) シンポジウム参加の報告

2001年3月11日に、武蔵野市スイングホールにて「武蔵野市まちづくりフォーラム2001」が開催され、パネルディスカッション「未来に手渡す美しいまち武蔵野を考える」に、パネリストの一員として参加した（パネリストは他に土屋武蔵野市長、清水千葉大教授、中村(株)小学館編集長）。

武蔵野市の町づくりについて、筆者は住環境のアメニティ向上と緑化空間の増加をテーマにスライドを用いて発表し、後に標記テーマについて討議した。

## 5) 建築雑誌、会誌への寄稿の報告

### ①建築専門誌『ディテール』寄稿報告

標記雑誌6月号別冊「山本理顕/システムズ・ストラクチュアのディテール」（2001年6月30日発行、彰国社）の、HAMLET（淤見邸）解説文（p.62）を担当した。筆者がかつて勤めていた建築設計事務所の所長である建築家山本理顕氏の作品の特集号であり、筆者が担当した住宅について解説文を書く機会を与えられた。

4世帯3世代にわたる大家族のための住宅であり、家族構成や社会との係わり方により住宅

平面計画を決定するという山本の設計手法が、比較的率直に表された作品であることを中心にまとめた。

## ②東京理科大学同窓会誌『理大科学フォーラム』寄稿報告

標記同窓会誌の「建造物の世界遺産」というシリーズに寄稿する機会を得た。「ブハラ歴史地区（ウズベキスタン）」（2001年9月1日発行，通巻207号，p.32-33）と題し，中央アジアのウズベキスタンの世界遺産に指定されたブハラ歴史地区の都市及び建築物について，筆者が1995年に訪れた際の写真とともにまとめたレポートである。

イスラムの中世都市空間が残るブハラのモスクやメドレセを中心とした宗教コンプレックスとその装飾について，及び都市施設としての給水池（ハウズ）や関所・商店兼用の交差点に構築されたドーム型建造物（タキ）について，人々の生活との関連性をテーマにまとめた。